

森林学講座「若者の意見発表」より

森林学講座「若者の意見発表」より

今回は㈱グリーンシャインにお勤めの松原尚久さんの発表を紹介します。

去年の4月よりグリーンシャインに勤めています松原尚久と申します。宜しくお願いします。今日は普段僕がしている仕事内容を中心にお話ししたいと思います。

グリーンシャインでは育林から林産まで手広く作業しております。そのため、僕は入社してまだ一年少々ですが、地拵えにはじまり、植え付け、雪起こし、下刈り、枝打ち、間伐、搬出作業と一通りの作業を経験しました。その中でも、最近では少なくなってしまったそうですが、新植の仕事をこの前させて頂きました。言葉にすれば雑木を全伐して棚にもくるだけの作業ですが、その中でも段取り良く行うためには様々な工夫が必要だということがわかりました。このもくるという表現はあまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、適当な長さに切った枝葉を横にずらっと並べて転がしていく作業を指します。大きな卵焼きを作るような感覚です。話は戻りますが、どういう工夫が必要かという、たとえば、一度にたくさんの枝葉をもくれるように枝は長めに切っておくこと。しかし長すぎると今度はもくる際に大きな力が必要になってくるのです。長すぎず短すぎずの適度な長さにする必要がありました。またもくる際に使う棒は、手に持ったときに重すぎなく、良くしわるリョウブが適していることも教わりました。

ある現場では全伐した雑木を薪用に使うので出してくれと頼まれました。その時初めてトビを使ったのですが、その使い方も簡単そうで難しいことがわかりました。ただ刺して引っ張るだけのように見えても、木のどこに刺し、どの方向に引っ張れば簡単に動かせるのか考えながら作業しました。今でこそ重機をつかってウィンチで集材していますが、機械化される前は毎回このような作業をして搬出していたわけですから、大変な重労働だったと思います。

また雑木が裂けやすいということが実感できたのもこの現場でした。直径40センチほどの栗の木を切った際、追い口を入れたところ元から3mほど裂けあがりました。事前に先輩から追い口の正面に立たないように注意されていたので、怪我はありませんでしたが、あれが直撃していたかと思うと非常に怖かったです。その先輩に原因をきいたところ、受け口が小さすぎたこと、木の重心方向に受け口をつくってしまった事を指摘されました。雪や根うがしで、しわっている杉桧を切るときは見た目にもわかりやすいので気をつけているのですが、雑木の場合重心がどちらに偏っているのかわからないことがあるので、裂けないように慎重に作業することを心がけています。

最近では搬出作業のほうもさせてもらえるようになってきました。しかし、その作業の複雑さに戸惑っている部分もあります。たとえば、下刈りなら刈ってしまえば作業は完了しますが搬出の場合はそうはいきません。作業道をつけて、伐倒し、集材・造材後、フォワーダーに積み込み土場でトラックに積み替え市場に運搬することで作業が完了します。これらの作業のうち、今は主に集材・造材をさせてもらっていますが、その中でも効率よく作業するにはどうすればよいのかを常に考えています。同じ方向から引っ張れそうな木はなるべく一度に引っ張っておきたいところですが、いくら重機でもウィンチで引っ張る力には限界があります。上に他の木が重なっていたり、桧の場合が特にそうですが、枝が立に引っ掛かって引っ張れないこともあります。そういった場合には、先にのっている木を引っ張ったり、重機が他の木を引っ張っている間に邪魔な枝を落としておくなどをしています。しかし、集材作業で一番気をつけないといけないのが立ち木に傷をつけないことです。どうしても避けられない場合もありますがそれでもウィンチを切り株に引っかけて引く方向を変えたり、立ち木の根元に枝を挟むなどしてなるべく傷がつかないように気をつけています。とにかく、現場のどこに木が倒れていて、どの方向から引っ張らないといけないのか、それを把握できれば効率よくかつ立ち木に傷をつけないで作業ができるのではないかと思います。

グリーンシャインでは、緑の雇用という研修制度も取り入れています。緑の雇用というのは新しく林業に就いた若者を対象に、研修や補助をする事業です。この研修では熟練の講師の方から林業に関する話を講演して頂いたり、実際の作業について実習で教えて頂いたりしています。講師の方から基礎からおしえていただけるということで、いい研修制度だと思っています。またこの研修では他の事業所の人たちと合同で行っています。

そのため、同じように林業を志している同世代の人たちとの交流や、他の事業所がどのようなやり方で作業をしているのか参考にできる機会でもありまして、よい刺激になっています。

林業に携わって二年目になります。段々と仕事の段取りも分かってきたし面白く感じてきていますが、同時に気のゆるみから事故を起こしやすい時期だとも思います。事故になれば自分が痛いのはあたり前ですが、周りの人にも迷惑がかかってしまいます。とくに林業はすべての産業の中でも最も死亡率の高い産業だそうです。

とにかく事故のないように安全第一でこれからも林業に携わっていきたいと思います。

